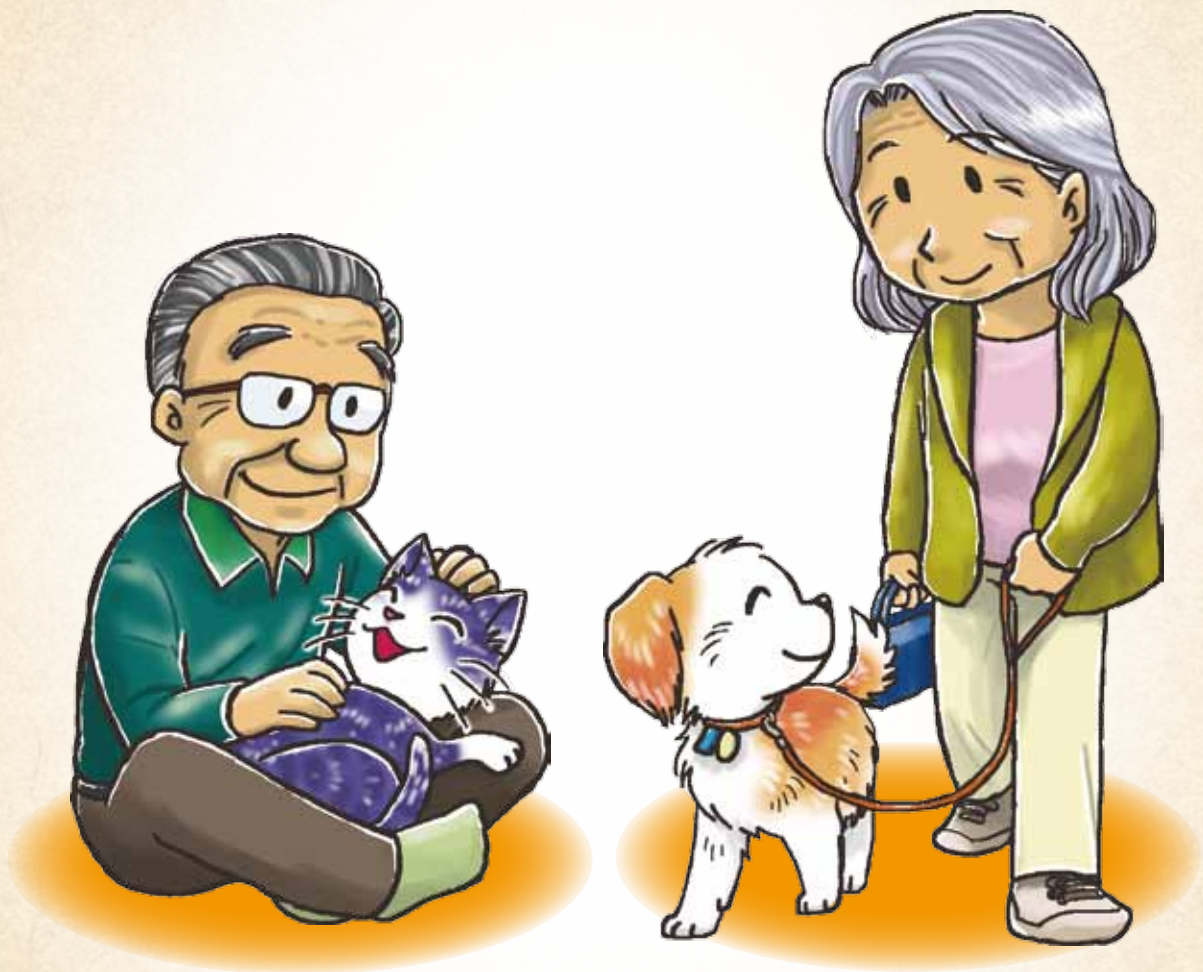


共に生きる 高齢ペットと シルバー世代



ペットも飼い主も歳を重ねると
体力や生活習慣が変わります。
シルバー世代の飼い主と高齢ペットが
ともに幸せに暮らせるように、
日頃から備えておきましょう。

シルバー世代とペット

ペットとの暮らしは、私たちの日常に幸せと彩りを与えてくれます。ペットの世話が生きがいになったり、ペットの話題で会話も弾みます。



ペットの寿命は年々伸び、犬や猫は15年以上生きることも珍しくありません。万が一自分が病気などになってしまったり、飼い続けることができなくなったときにどうするか……。そんな事も考えて、対策をとっておくことがシルバー世代のペットへの責任です。

いまどきのペットの飼い方

昔と今では、ペットの飼い方の常識も変わってきています。昔の猫は外出自由な飼い方が当たり前でしたが、今では外に出さないで飼うことが基本です。犬の鳴き声や散歩での糞や尿の放置もご近所トラブルの元になります。

犬



毎日の散歩やしつけが必要です。
犬種によって大きさ・特性・性格、必要な運動量が異なります。
将来の自身の体力なども考えて選択しましょう。
飼い主には市区町村への飼い犬の登録と毎年の狂犬病予防注射等が義務づけられています。(狂犬病予防法)

NOTE

シルバー世代には成犬、成猫からが飼いやすい

おとなの犬や猫は、大きさや性格がある程度分かっているという利点があります。保護施設からの譲渡には年齢制限等の条件もありますが、あなたに合う犬や猫の紹介や、トライアル期間（試しに飼ってみる期間）、飼い方のアドバイス等も行っていますので、選択肢のひとつとして考えてみてはいかがでしょうか。



飼う前にチェック

- ☐ ペットの世さに毎日時間をかけられますか？
・ ペットの世さに休日はありません。
- ☐ ペットを飼える住まいですか？
・ 賃貸の場合は契約内容を確認しましょう。
- ☐ 世話をする体力や、飼い続けるお金はありますか？
・ フードだけでなく、動物病院の費用などもかかります。



支出総額と平均寿命の目安



犬 1頭飼育者の場合

平均支出金額 1ヶ月あたりの総額 (医療費等含む)	10,368 円
犬の平均寿命	14.29 歳



猫 1頭飼育者の場合

平均支出金額 1ヶ月あたりの総額 (医療費等含む)	6,236 円
猫の平均寿命	15.32 歳

出典：平成 30 年全国犬猫飼育実態調査
(一般社団法人 ペットフード協会)

ハムスターやウサギ などの小動物



その動物に合った飼養環境と専用のフードが必要です。
飼い方をよく調べて、自分に合った動物を選びましょう。
専門に診てくれる動物病院が少ないので、あらかじめ診てくれる動物病院を探しておきましょう。

猫



室内で飼うことが基本です。
上下運動できるスペースや落ち着ける場所の確保など、
猫本来の習性や行動に応じた環境づくりに配慮することが大切です。
毎日のフードや水だけでなく、こまめなトイレの片づけ
や部屋の掃除が必要です。
繁殖力が強いので、必ず不妊去勢手術をしましょう。

NOTE

動物の繁殖スピードは超特急！ 不妊去勢は一刻の猶予也没有！

動物は、本能で繁殖します。親子やきょうだい間でも子どもを作ります。

特に猫は、1頭のメス猫が1年に3回出産できるので、1年後には20頭に、2年で80頭以上に増えてしまうこともあります。

2～3頭なら大丈夫と思って不妊去勢手術をしないでいたら、1～2年で家じゅうが猫だらけの状態になってしまいます。

自分もペットも 将来への備え



シルバー世代はどうしても体調を崩しやすくなりがちです。こんなことになってしまうかもしれません。

犬の散歩で歩くから
ひざが痛くても
なかなか治らない...

毎日のペットの
手入れやトイレ掃除が
大変になってきたわ...

お医者さんに入院が
必要といわれたけど
世話をどうしよう...



困った時に備えて

● 一時的な預け先を見つけておきましょう

- ・ 家族、友人、近所の人など、いつも会っている人ならペットも安心です。



● ペットを清潔にしておきましょう

- ノミやダニの予防
- ワクチン接種
- 寄生虫の駆除
- ・ 預けるときに必要です。
- ・ 自分の健康にも大きくかわります。



● かかりつけの動物病院を作りましょう

- ・ 歩いて通える距離や通いやすい場所がいいでしょう。
- ・ 普段から検診などで信頼関係を築きましょう。
- ・ 一時的な預かりができる場合もあります。



● 基本的なしつけをしておきましょう

- トイレのしつけ
- ケージの中でおとなしくできる
- ・ 預けた先で迷惑にならないように、また災害でペットを連れて避難したときにも必要です。



● ペットホテルやペットシッターを調べておきましょう

- ・ 事前に探して、試しに短期間で利用してみましょう。
- ・ 長期間預けたいときは、早めに相談しましょう。



● ペットの健康手帳を作りましょう

- ・ ワクチン接種の記録などをつけておきましょう。
- ・ 緊急のときにも役に立ちます。



健康に過ごすために

食事

動物の種類や年齢、健康状態にあった適切なフード、新鮮な水を与えましょう。



住まい

動物が快適に過ごせるよう、清潔で、安全な飼養場所を用意しましょう。



獣医療

日頃から病気の予防を心がけ、健康状態をチェックしましょう。



しつけ マナー

- ・ ふんや尿の処理は責任を持って行いましょう。
- ・ 鳴き声や吠え声、臭いなど近隣の迷惑にならないようにしましょう。
- ・ 屋外に犬を連れて行くときは、リードをつけましょう。
- ・ 身元を示す迷子札やマイクロチップを入れましょう。
- ・ 預かりや介護、災害に備えて、他人にさわられることや、室内（ペットシート等）での排泄になれさせておきましょう。



人もペットも病気の予防と早めの手当てが大切です！！

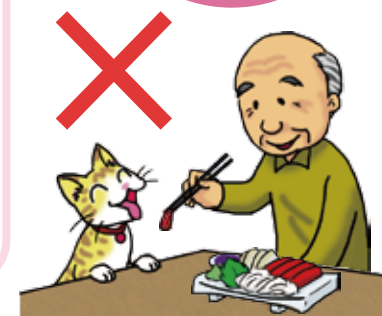
人と動物には共通の病気があり、動物からうつることも、人から動物にうつすこともあります。シルバー世代は持病を持っていたり、免疫力や体力が落ちて病気が重くなりがちなので、特に気を付ける必要があります。

- ① 過度なふれあいは控えましょう。
- ② 動物にさわったら、必ず手洗い等をしましょう。
- ③ ペットの身の回りは清潔にしましょう。
- ④ ふんや尿は速やかに処理しましょう。
- ⑤ 体に不調を感じたら、早めに医療機関を受診しましょう。
- ⑥ ペットの健康状態に注意しましょう。

ふんや尿からうつる

咬まれたり引っかけられてうつる

過度なふれあいからうつる



NOTE

ペットの防災対策

災害で避難するときは、ペットも一緒に連れて行く「同行避難」が基本です。ペットの数は一緒に連れていける頭数までにしましょう。防災マップなどで、避難方法や経路を確認しておきましょう。

高齢ペットのケア

ペットも高齢になれば身体も弱り病気にもかかりやすくなります。嗅覚も衰えてくるので、臭いの強いフードにするなど、食欲を維持する工夫が必要です。歯みがきで口の中を清潔に保ったり、適度な運動も忘れずに、小さな変化を見逃さないよう心がけましょう。また、気温や生活環境の変化で体調を崩しやすくなるので気をつけましょう。

犬・猫の老化のサイン

■顔まわり■

目が白く濁ってくる。
耳が遠くなる。

■体■

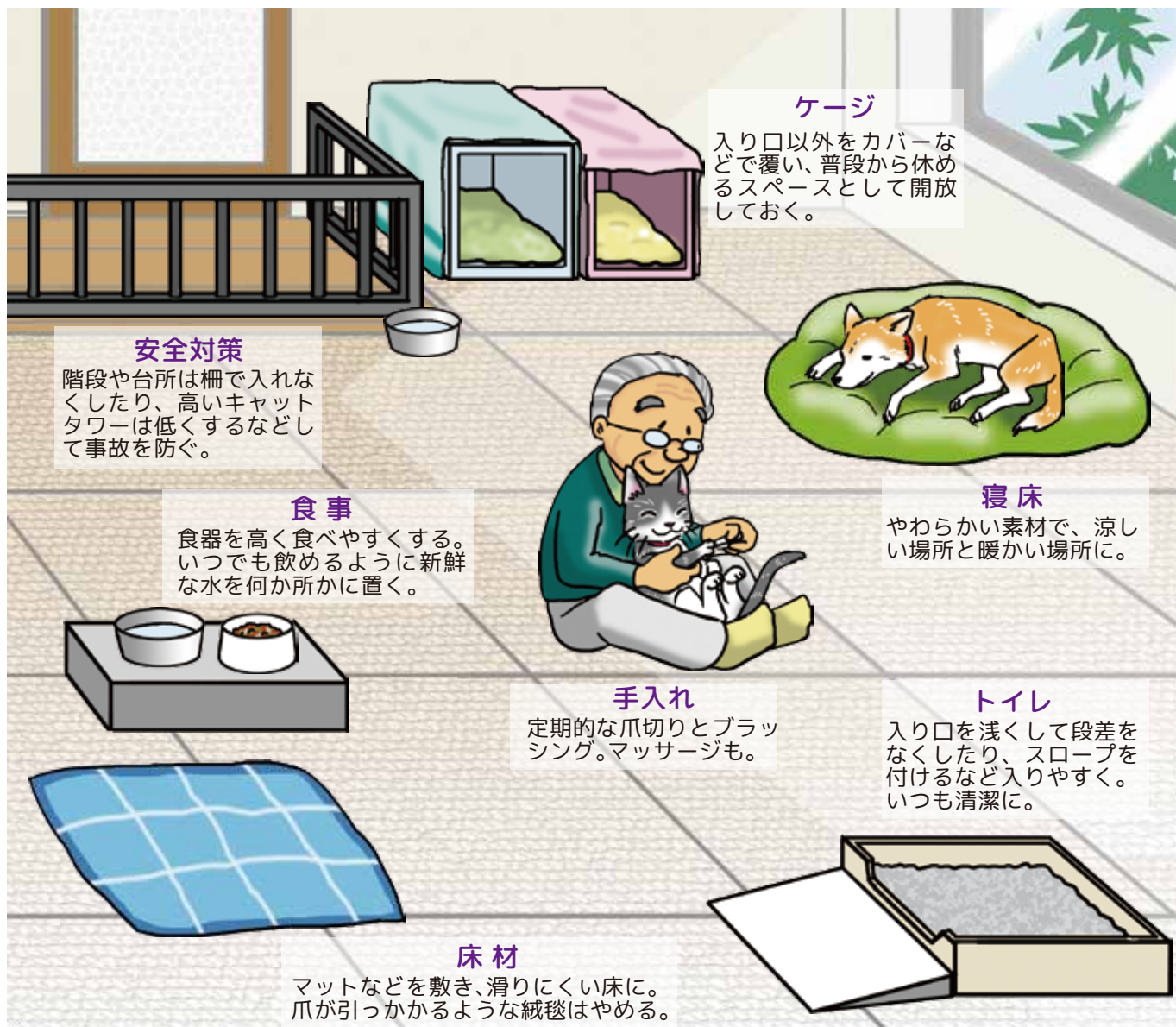
毛づやが衰える。
抜け毛が増える。
白髪が目立ってくる。
足腰が細くなる。



■行動■

反応が鈍くなる。
運動量が減る。
トイレをうまく使えなくなる。
段差でつまずく。
高いところに飛び上がれなくなる。
寝ている時間が長くなる。

高齢犬・高齢猫の過ごしやすい部屋づくり



ケージ

入り口以外をカバーなどで覆い、普段から休めるスペースとして開放しておく。

安全対策

階段や台所は柵で入れなくしたり、高いキャットタワーは低くするなどして事故を防ぐ。

食事

食器を高く食べやすくする。いつでも飲めるように新鮮な水を何か所かに置く。

寝床

やわらかい素材で、涼しい場所と暖かい場所に。

手入れ

定期的な爪切りとブラッシング。マッサージも。

トイレ

入り口を浅くして段差をなくしたり、スロープを付けるなど入りやすく。いつも清潔に。

床材

マットなどを敷き、滑りにくい床に。爪が引っかかるような絨毯はやめる。

ペットの介護とみとり

ほとんどのペットは人よりも早く歳をとります。別れは辛く悲しいですがペットにとっては飼い主の愛情が全てです。最期までみとるのは飼い主の最後の愛情と責任です。

介護

ペットの介護は飼い主にとって重要な問題です。一人で抱え込まず、家族と協力したり、かかりつけの動物病院に相談し、無理なく続けられる方法で向き合いましょう。



終末期医療（ターミナルケア）

終末期医療とは、末期患者の延命を目的とするものではなく、苦痛をなくし生活の質を向上させる医療のことです。ペットの獣医療は日々進化し、終末期にどこまでどのような獣医療を行うかを考えておく時代になってきています。かかりつけの獣医師とよく話し合い、ペットがその子らしく残りの時間を過ごせる方法を考えてあげましょう。

人間の年齢に換算した犬・猫の年齢の目安*

犬・猫の年齢	人間の年齢に換算した年齢	
	大型犬	小・中型犬、猫
6歳	47歳	40歳
7歳	54歳	44歳
8歳	61歳	48歳
9歳	68歳	52歳
10歳	75歳	56歳
11歳	82歳	60歳
12歳	89歳	64歳
13歳	96歳	68歳
14歳	103歳	72歳
15歳	110歳	76歳
16歳	117歳	80歳
17歳	124歳	84歳

* 品種や飼育環境等によって違ってきます

ペットロス



愛するペットを失ったことを悲しむのは決して特別なことではありません。悲しい気持ちを友人などにきいてもらったり、お別れのセレモニーを行うなど、悲しみを十分に吐き出すようにしましょう。

NOTE

将来にもっと備えるために

➤ペットのための遺言・信託

自分がペットより先に死亡してしまったときのために、ペットを誰に託すか、残した財産をペットのためにどう使うか決めておくことができます。

➤老犬・老猫ホーム

ペットを預かり亡くなるまで世話をしてくれる民間業者（第一種動物取扱業）があります。よく調べて相談のうえ、利用するようにしましょう。

➤ペット保険

動物病院での負担を軽くするために、ペット保険（ペットのケガや病気の治療費を一部補償する保険）に加入しておく方法もあります。加入できるペットの種類や年齢、補償プラン、保険料は様々ですので、よく確認して契約しましょう。

ペットを飼う以外にも動物とふれあう方法があります

犬のお散歩ボランティア、保護施設の馴化^{じゅんか}※ボランティア、一時預かりボランティア、子猫のミルクボランティア等、行政や動物愛護団体が募集するペットの世話を手伝いするボランティア活動があります。

※馴化：人や環境に慣れさせること



馴化ボランティア



譲渡会



ボランティア講習会



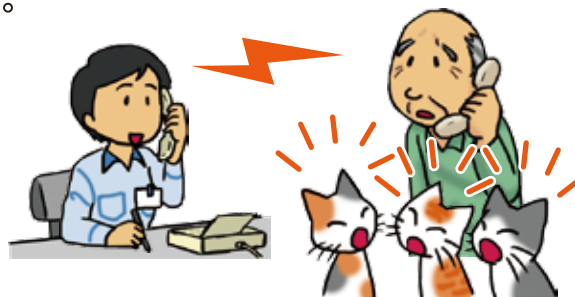
ミルクボランティア

●ペットについての相談

困った時に相談できる相手がいないと、どんどん状況が悪化してしまいます。一人で抱え込まずに、早めに相談しましょう。

住んでいる地域の行政機関の相談先

- ・保健所
- ・動物愛護センター
- ・市区町村窓口



発行：環境省自然環境局総務課動物愛護管理室
所在地：〒100-8975 東京都千代田区霞が関 1-2-2
<http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/>
令和元年9月発行



○お問い合わせやご相談は、お近くの都道府県、政令市、中核市等の担当窓口へ